

中村 俊一 社長

おかげさまで当社は今年、創立65年を迎え、今まで培ってきた高い技術力を基に放送サービスの高度化に向けた製品開発やサービスを拡大してきた。18年の社長就任当初に3カ

材を出すことができる「8K映像伝送システム」などを展示した。昨年2月にNICITが主催した「さつぽろ雪まつり8K映像伝送実験」ではこの伝送システムが使われ、札幌から8Kライブ映像を圧縮して、IPで東京、大阪、沖縄へ配信する実験を成功させました。今年も同実験に参加し、画質が向上した

18年にスタートした新4K8K衛星放送は、普及のための整備は進んでいるが、まだ一般商用化の段階にまわっていない。当社としてはお客さまに魅力ある使いやすい製品を提供し、4K・8K

については、4K・8K FTTH化やIP化にも取り組んでいく。今年は特に5Gの商用サービス開始や東京五輪・パリンピックがあり、映像を中心とした大きなイベントを控えている。それらに対応した製品供給を通じて貢献していく。

デジタル技術はますます高度化し、デジタル人財の育成は重要になっている。当社では継続性ある教育プログラムで人財育成を強化。親会社の古河電気グループの組織力とコラボしながら、異なる分野で専門性を持つ人材の融合・協働の推進も積極的に行う。

デジタル人財を育成

8K放送信号 圧縮処理技術 医療分野などで活用

「二つの柱を掲げ、一段上の事業レイヤーを目指している。中期経営計画3年目に当たる今年には仕上げの年と同時に、次の中期計画へのステップアップを図る年でもある。新分野にも挑戦する。

放送の普及促進に貢献したい。 昨年のInteractive EではHDと4K映像の切り替えが簡単にでき、マルチアングル8K映像を使った内視鏡手術など医療分野をはじめ、スポーツなどの様々な分野に生かしていきたい。今後もお客さまのニーズに合わせたい。今後もお客さまの困っている点は引き続きサポートする。

8K HEVCエンコードを検証する予定。並行運用になると考えられている。社長に就任した18年に「向こう10年はHFC機器を供給し、CATV局をサポートする」と宣言した。そして、機器販売のみならず、保守・監視などサービスも強化。先を見据えた提案をしながら、トータルソリューション企業として、お客さまとともに継続性あるサービスと付加価値向上を図る。



中村 社長

ISDB-S3変調器を使いチューナ付きテレビに4K・8Kの素

映像伝送システムに